



構内配置図（完成イメージ）

カーゴニュース 2026年3月24日 第5421号

CTT

ISOタンクコンテナデポ事業に参入

来年3月開業、洗浄・保管に対応

2026/03/23 16:00



📖 お気に入り登録する

🖨️ この記事を印刷する

危険物・化学品

セントラル・タンクターミナル（CTT、本社・東京都中央区、宮川靖嘉社長）はISOタンクコンテナデポ事業に参入する。横浜市鶴見区大黒町で洗浄、保管、加温、荷姿変更などに対応できるフルスペックのデポを建設し、来年3月に開業予定。多品種小ロット化に対応したISOタンクコンテナの物流を取り込むことで、ケミカル物流の業容を広げ、コアであるタンクターミナル事業とのシナジー創出を図る。

2024年12月に買収した旧内外輸送（現CTT横浜大黒事業所）の一部のタンク、普通品倉庫、高圧ガス倉庫を取り壊し、跡地にISOタンクコンテナのデポを新設する。敷地面積は約6700㎡で、洗浄・メンテナンス棟、加温施設、実入りタンクの危険物屋外貯蔵所、空タンク置き場で構成される。

洗浄・メンテナンス棟はそれぞれ3レーンで、月間最大60本の作業を行える。実入りタンクの危険物屋外貯蔵所は124本分で、消防法危険物第4類がベースだが毒劇物、高圧ガス保管も検討中。空タンク置き場は96本分のスペースを確保する。加温設備は9本を同時に作業でき、一般取扱所ではISOタンクコンテナからローリーなどへの詰め替えも行う。

CTTは国内タンクターミナル事業最大手で、近年、同業者のM&Aを積極的に展開。現在、同社の国内タンク総数は455基・42万3047klとなっている。ISOタ

ンクコンテナデポ事業に参入することで、既存の顧客に対し、大容量・長期のタンク保管のみならず、小容量・短期のISOタンクコンテナによる保管も提供できるようになる。

ISOタンクコンテナのデポは、コンテナヤードやエンドユーザーの工場への搬入のタイミングの調整基地として、近年、ニーズが高まっている。トラックドライバーの長距離輸送が敬遠されるなかで、中継基地的な利用も増えている。デポの運営を通じ新たな顧客を開拓しながら、タンクの利用拡大につなげたい狙いもある。

なお、ISOタンクコンテナの洗浄・メンテナンス事業にタンクターミナル事業者が参入するのは国内では初となり、すでに有力オペレーターの利用が決まっている。保管のみならず洗浄まで手がけることでノウハウが蓄積され、専門人材の育成にもつながる。将来的にはISOタンクコンテナのリース・定期検査・修理・輸送等への業容拡大も視野に入れている。